



ムチムチ幼馴染が 夏休みに寝取られた話

ムチムチ巨乳の幼馴染が
突然現れたチャラ男にすべて奪われてしまう……

僕の名前はコウスケ。

「ようコウスケ、おはよう！今日もあちーな！」

彼女はリオ。

幼い頃から一緒に遊んだり、ときには喧嘩したりする、
いわゆる幼馴染ってやつだ。

「今日も放課後どっか遊び行くか？また男同士の友情深めよーぜ！」

リオは変わり者で、小さな頃から男として育てられたせいで、
自分のことを男だと思いこんでるらしい。



そしてリオはなぜかいつもスパッツを履いている。
その理由を聞いてみたが……

「オレは男なんだ！スカートなんか履けるか！」

ということらしい。
リオはいつもこうやって男だと言い張り、男になりきっていた。



僕もリオの気持ちを尊重して男として、扱ってるが

ムチムチに育った身体を見るたびに、女だと意識してしまい……

僕は、いつしかリオに恋心を抱くようになっていた。

自分を男だと言い張って、意地になってしまつところも、それはそれで可愛い。

ぷるんっ

ム4♡

ム4♡

「なあ、今日も一緒に帰ろうぜ」

ドキドキ

「オレ……いつもみんなから、オトコオンナとか言われてバカにされてるけど
お前だけはオレのこと、わかってくれてるよな……」

「だ、だからな……そんなお前のこと……
や、やっぱなんでもないっ」



自分は男だと言い張るリオも、心は乙女だと僕は気づいていた。
リオも僕のことを、男として意識しているのは薄々感じていたし、
いつか告白したいと思っていた。



男と思い込んでいたリオを告白したりすると、ショックを受けて
いままでの関係が壊れてしまうかもしれない。

だから急ぐことなくゆっくり、関係を深めていこうと思ってたんだ。

だが、そんなある日、僕達の前にチャラい転校生が現れた。

「ねえ、君マジ可愛いくな？」

「か、可愛い……うー！オレは男だ！可愛くなんかない！」

「男？その冗談、マジうけるんだけど（笑）
お前気に入ったわ！」



「俺、転校してきたばかりで、友達いないんだわ」

「俺と友達になってくれない？」

「もちろんいいぞ、オレも男友達欲しかったんだ」

転校生は、転校早々リオに近づきあっさり友人となった。



ある日僕は、転校生がリオを値踏みするような目で見ていることに気づいた。
そのことをリオに忠告しようとしたのだが……

「なあ……あのチャラ男転校生……なんか怪しくないか？
なんか企んでそうなんだけど……」

「そうか？ 明るくていいやつそうじゃないか。
人を見かけで判断するのは良くないぞ」

リオは、転校生を信頼しているようで、これ以上強く言えなかった……



そうこうしてるうちに、夏休みになり
僕は家族旅行で、夏休みの間、海外へ行くことになった。

「ふーん、海外かー……コウスケはいいなあ……」

「コウスケ、海外楽しんでこいよ、俺はリオと仲良くやってるわ」



僕がいない間に、転校生が変なことしないだろうか……

リ才はああみえて純粹で、性の知識も恋愛の知識もないから騙されないか心配だけど……

ちよつと、考えすぎかな……

そして、僕は日本を旅立った……

くくっ……やっと邪魔者が消えたか……)

「なありオ、お前二人暮らしだよな？
今日から夏休みだし、休みの間中、お前の家に泊まってもいいか？」

「な……っ！泊まるだつて……だけどそれは……」

「なに躊躇してんの？男同士の友達なら、
家に泊まるなんてよくあることじゃん？」

「そうだな……男同士だし何も問題ないなっ！
よし、俺の家に泊まりに来いよっ！」



夏休み1日目

「これが、お前の部屋か……」

「お、おい……あまりジロジロ見るなよ……
恥ずかしいだろ」

（男を部屋に入れるなんて初めてだ……）



「よし、突然だけど、マッサージするぞっ！」

「マ、マッサージ？…そんなのしなくていいからっ！」



「まあ、そう言うな、男同士でマッサージするのはよくあるじゃないか！」

「ぞ、そんなのか？…そこまで言うならマッサージしてっくれ」

「そんじゃ、マッサージのための準備しないとな」

「はっはー色気のないブラしてんなー(笑)」

「ちよっつーー何しやがるっー!」

ぷるん

ムキッ

むん
むん

「何って服を脱がせたただけだろ?」

服を着たままマッサージなんか出てないっつーの!」

「ま、まあそうかも知れないけど……」

「そっつーことだ。早速、マッサージ始めろぞ!」



「おいっ！どこ触ってんだよっ！」

「どっつて、足の根元だけどっ！」

はあッ♡

んっ♡

「んっ……はふっ……♡
根本というより、そこは……あんっ♡」

「なんかクリクリしたものがあろうっ！うーん、これは凝ってるなあ……
入念にマッサージしてやんよっ！」

くっ♡
くっ♡



「バカっ……おまつ……ああっ！」

そんな所、マッサージしなくていいからあ……♡「

くくっ……スパッツが湿ってきたな……」

あッ♡

んッ♡

ビクッ

ビクッ

オェッ♡

んっ♡
んっ♡

「ああっ……それ以上やると……だめえっ！
ホントにやばいからあ……っ♡」

「ふああっ……♡だめえっ！……あんあっ……♡
んあっ……あああ……♡」

プシヤアアアアアッ！

「うおっ！すげえスパッツびしょ濡れ(笑)」
(これは軽くイッたな)

お〜♡

ポクッ

ポクッ

ヒクヒク

ふいふああ

「もうやめろお……」
これ以上やると部屋追いつからなっ！

(ちっ……これ以上やると警戒されるな……
しかたない……今日はここまでしておくか……)



「ふう、今日は疲れたな……」

「オレ、風呂に行ってくる……」

（くつく……次はあの作戦といくか……）



「バカっ！なんで風呂に堂々としてきてるんだっ！」

「知らないのか？」

男友達は一緒に風呂に入って、親交を温めるんだぞ。

裸の付き合いと言っやつ、聞いたことぐらいあるっしょ。」



「そ、そうだな……俺は男だっ！」

男同士風呂に入っても何も問題ない！」

「それじゃ早速、身体洗ってやんよ」

(うおおおお、リオの生乳やわらけえ……)

「あッーああんッー！」

「お、おいッー！どこ触ってるんだようッー！」

んっ♡

「胸を洗ってんだけど？」

「男同士だし問題ないだろう？」

「お、おう……そうだな……問題ない……」

けろ♡

むっ
むっ

んっ♡

「はふっ……あっ……はあ……っ！
あぁっ……あっ、やつはぁんっ！♡」

「なんだ……胸を洗われると……
自然に声が出てしまう……っ！」

あッ♡

ふぁっ♡

「可愛い声出てんぞ？
そんなに気持ちいいのか？」

「バカっ！俺は男だっ！胸を洗われるだけで
気持ち良くなるはずがないっ！」

おる♡

むしゃ

むしゃ

ムシャ

「そっかゝ気持ちよくないのかゝ
そんじゃ、気持ちよくなるようにもつと強く洗ってやんよ♪」

「ふあっ！そんなに強く揉んだら……
はあんっ！んあっ………激しすぎい……っ♡」

あッ♡

（リオのおっぱい、最高っ！
揉む手がとまんねえぜ！）

ふあッ♡

「やあっ……ダメえっ！
もう十分気持ちいいからあ……っ！♡
もういいっ！洗うの終わりだあっ！」

あッ♡

むっ
むっ

ムッ

「そっか、残念だな、
それじゃ最後の仕上げをして終わるぞっ!」
「さ、最後の仕上げ……っそれじゃ、頼む」

ドキ
ドキ



ちゅぽっーじゅるっーちゅっちゅっー

(ぶっくろ乳首うめえ)

「ああん……っ♡♡

おいっー何やってんだよっー」

「何って、胸を口で洗ってるんだけど？」

「く、口で洗うやつなんているわけ無いだろっー！ばかあっー！」

あ♡♡

ん♡♡

ちゅぽっ
ちゅぽっ

もみ
もみ

「男友達同士では、こうやって洗うのが
当たり前なんだけどなあ?」

「そ、そんなわけ……あはっ♡ふああ……っ♡」

ちゅぷっ!ちゅうっ!ちゅうっ!ちゅうっ!

「ああんっ!そんなに激しく吸われたらっ……
なんか変なの来る……っ♡」



んっ♡

あっ♡

ちゅぽっ
ちゅぽっ

もみ
もみ

ああっ♡

「あっ♡あっ♡うあ♡あああああ〜♡」

ふめっ♡

（くっく……軽くイッたみたいだな……

乳首だけでイクとは……

こいつ、とんでもなく敏感おっぱいしてやがるっ！）

「はあ……はあ……はふっ……」

（くそっ……おっぱいを吸われて
気持ちよくなってしまった……
オレ男なのにい……）

チュ

ル

ル

ル

ル

ソク♡

ソク♡

「今日も一緒に風呂はいるのか……」

「当然だろ、この前は俺がお前の身体洗ったから
今日はお前が洗う番な、頼むわ」

「お、おう……わかった、どこを洗うんだ？」

「そんじゃ、胸でチンポを挟んで洗ってくれよ」

「む、胸でだと……わかった……」

(パイズリの意味もわかってないみたいだな……
ここまでエロ知識ないとか……マジちよろい)(笑)



「う、これでいいのか……?」

(こ、これが本物のチンポ……でかすぎる……)

んっ♡

はぁ♡

「うおっ…すげえ乳圧っ…まじ気持ちいいっ…!」

ぐにゅ

ぐにゅ

ぐにゅ♡

ぐにゅ♡



「お、おい、チンポがビクンビクンしてるぞ、大丈夫なのか……っ」

「なんだっ俺のこと心配してくれてるのか？」

はぁ♡

ん♡♡

「そ、そんなんじゃねえよっ！
ただ気になったただけだっ！」

「心配するな、気持ちよくなったらこうやって
ビクンビクンするものなんだよ」

「き、気持ちいいのか……それなら良かった……」

ムビ♡

ムビ♡

ムビ♡

ムビ♡



「くっ……もう少いでイキそうだ……」

もっと激しくおっぱいをチンポに擦り付けてくれー」

「いっ、いっ、いっか？」

「うおおっ……リオのおっぱい気持ちよすぎっ……
もう出すぞっ……」

「出す……っ、出すってなんだよっ……」

「出すって言ったならザーメンに決まってるだろ……
俺の濃厚ザーメン、リオの顔にかけてやんよっ……」

ムニッ♡

ムニッ♡

ムニッ♡

ムニッ♡



ビュビュウウウウッー！ ビュルッー！ ドビュビュクッー！

「うわっ！チンポがビクビク脈打って……
白いネバネバしたのがいっぱい出てる……」

んあッ♡

「これが射精ってやつ。」

男同士こっぴやっぴ射精させることが友情の証っーわけ」

「そ、そうなのか、これでオレとお前の友情が
また深まったな♡」

（うはっ！簡単に騙されてやんのっ）

ビュルルルルルッ

「今日もリオが洗ってくれよ」



「今日もオレが……!?!?わ、わかった……
どこを洗えばいいんだ?」

「そうだな……それじゃ、チンポを口で洗ってくれ」

「口でっ……そんなこと友達同士でするわけ無いだろ!」

「マジで知らないの? 仲のいい男友達は、
お互いのチンポをしゃぶり合うんだぞ?」

「なっ……そ、そうなのか……わかった、しゃぶってやるよ……」

（うはっ、相変わらずちよれえ）（笑）

ドッキ
ドッキ



「ご、ごうか……っんっ……ンゲッ……」

「おお……いいじゃん……初めてにしてはうまいんじゃない？
もっと大きな音を立てて激しく吸ってよ」

「わ、わかった……んっーじゅるっ……
じゅぷぷ……じゅぼぼ……」

んっ♡

じゅるっ

デポ

「うおっ……ちよっ……」

「これやばいわ……マジ気持ちいい……」

ちよっ

（チンポがビクビク脈打ってる……
そんなに「レ」が気持ちいいのか……っ）



「じゅぶ、じゅぶ、じゅぼっ、じゅぼっ、んんっ……♡」

「くっ……もう限界だ……そろそろ射精するぞっ！
ザーメン全部飲めっ……」

「んんっ……ちゅばっ……」

「嘘だろ……本当に飲まないといけないのか……っ？」

んんっ♡

じゅるるっ

デポ

「当然だっ！ザーメンを飲むのが男同士の友情の証だっ！」

「わかったよっ！飲んでやるよっ！さっさと出せっ……♡」

「くっ……はっ……はっ……」



ドビュビュクッ！ビュルルウウウッ！… ビュルルッ！

「んぐっ……んんっ！♡」

(出てる……口の中で大量の精液が……
すごく臭い……だけど……)

んぐっ♡

ふびゅッ

べゅるッ

ビュ

ビュ

「管の中に残ってるザーメンもしっかり吸い出せよ」

「ちゅっ、ちゅー、んぐっ……んぐ……ぷはあ……♡」

「どうぶっはじめてザーメン飲んだ感想は？」



「苦いけど……癖になる味かも……♡」

「はっはーそうかー飲みたければ、
これからいくらでも飲ませてやんよー」

「なあ……今日は一緒に風呂入らないのか？」

「なんだ？一緒に入って欲しいのか？リオはスケベだな。」

「そんな訳あるかつ！馬鹿っ！もういいっ！一人で入るっ！」

「くくっ……たまには焦らすことも必要だろう……」



はあ

はあ

コリコリ

「はあ……はあ……くそっ、
オレの体、なんか変だ……」

「ここ最近毎日身体いじられたせいで……
体がうずいて仕方ない……」

くちゅくちゅ

くちゅくちゅ



はあ

はあ

「転校生のチンポのことを考えると
乳首とクリトリスがこんなに固くなつて……」

コリコリ

「オレ……コウスケのことが
好きだったはずなのに……」

「思い浮かんでくるのは
転校生のチンポばっか……」

くちゅくちゅ

くちゅくちゅ



あッ♡

ん♡

「あっ……♡あっ……♡あぁ、
あぁぁ……♡はぁ、♡はぁっ……♡はぁっ……♡はぁっ……♡」

「こんな女みたいにおっぱいとオママン」じじっで
自分を慰めるなんて、本当はダメなの……♡」

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃぁ……ぐちゃぁ……

「ぐちゃっ……」

おまんこからグチャグチャヨイやらしい音出てる……♡」

「あんっ……はあっ♡
気持ちよすぎて手が止まらない……っ♡」

44

コッ

「もうダメ……っ！♡イシちゃん♡♡」

「はふっ……♡はああ……♡潮吹いて女みたいにイッちゃったよお……♡」

「ものすごい大きい声出ちゃった……絶対転校生に聞かれてるよお……♡」

ん
あ
ッ
♡

ה'תשנ"ה



「あぁっ♡あん♡」
あッ……♡あぁあぁあゝ〜っ！♡♡
プッシュアアアアアアアーッ！！

 = / + ママ + ♡

「なんか顔が赤いぞ、なにかあったのか？」

「な、なんでもねえよっ!」



（オナニーしてたのバレバレなんだよ……
こっちの部屋までアンアン声が聞こえてたし……）

（くっく……女としての本能が目覚め始めているようだな）

6 目 目

「今日も体洗うんだろ……っ？体洗わせてやるよ……
本当は嫌だけど仕方なくだからな……」

（くそっ！毎日エロい体見せつけやがって……っ……！
マジたまんねっ！もう我慢の限界だわっ！）

「なありオ……今日は特別な友情の確かめ方を教えてやんよっ！」

「と、特別……っ？」



「お、おいつー何しやがるっ！チンポを俺の股にこすり付けるなあっ！」

「リオの身体がエロすぎて、もう抑えきれないわっ！
チンポ入れるぞっ！これも男同士の友情の証だっ！」

「ふ、ふざけるなっ！これが友情の証なわけ無いだろっ！」

「チンポをオマンコに入れるのは恋人同士のすることだっ！
いくらオレがバカでも、それぐらい知ってるぞっ！」

「うっせーよーリオの身体がエロいからわりーんだよっ！
いつもデカ乳プルンプルンさせやがって……っ！もう我慢出来ねえんだわ！」



「ふあ……いい加減にやめっ……やめろっ……!」

「おっ・リオのマン」すっげーぬるぬる(笑)
もうチンポ受け入れる準備完了してるじゃん」

「そ、それはお前がスリスリするからあ……!」

「そんじゃ、チンポ入れちゃいまーすっ!」

「ちよっ?ー待てっ?ーやめろおおおっ……!」



「んっあああああ——ッ！
ほ、ホントに挿れやがった……っ！」

「誰が挿れていいと言ったっ！抜けっ！
今すぐチンポ抜けっ！」

おッ！

(処女はコウスケにあげたかったのに……)

「やっぱり処女だったみたいだなっ！
リオの処女マンコゲットっ♪」

ズッ！



「いつもメスの匂いプンプンさせやがって……
ずっとリオのマン」にぶち込みたいと思ってたんだよっ！」

「そ、そんな……男友達だと思ってたのに……
そんなこと思ってたなんて……」

んぐ
んぐ♡

プルッ

プルッ

「腰を動かすたびに
デカイおっぱいプルプル揺らしゃがって……オラッ……」

ジュッ

ジュッ

ズッ



「はあああつーおっぱい揉むなあつー!」

「おっぱい揉まれながらガンガン突かれるとおかしくなっちゃうからあ……っ!」

「やめろっ……あつ、あああつ、あんっ、あああつー!♡」

あッ♡

あんッ♡

もみ

もみ

「はははっーファンファン声が出てるぞ
お前もそんな可愛い声出せるんだな」

「ち、ちがつ……っ……これはなにかの間違いだあ……っ……ああんっー!♡」

ジュッ

ジュッ

ズッ



「あっ、あんっ!♡……あっ、ああんっ!♡
お願いだ……もう終わってくれ……っ!」

「そんなに言うのなら、膣内に射精して終わってやんよっ!」

「ち、膣内はやめろっ!赤ちゃん出来るからあ……っ!」

「そんなこと言っちゃってさあ……
お前のオマンコ、精液欲しがって
キュンキュンチンポ締め付けてんだけど?」

「嘘だっ!そんなわけないっ!
やっ、ああっ!はっ、ああっ、あああっ!……っ!♡」



ジュー

ジュー

ズグ

「くっ……気持ちよすぎてもう無理だわっ！
初物オマンコの膣内に思いっきり濃厚ザーメン出すぞっ！」

（さっきよりチンポが大きく膨らんでる……
本気でオレに中出しする気なんだ……）

あッ♡

あんッ♡

もみ

もみ

「オラッ出すぞ！ザーメン受け入れる準備しやがれっ！」

「ダメだっ！膣内は本当にダメだっ！
抜けっ！チンポ抜けええっ！」

ジュッ

ジュッ

ズグ



「だめええええ〜ッッッ!」
んっあああああ〜ッッッ!」

ビュビュウウウウウッ! ビュッビュッ! ビュルッ!

おおおッ!♡

「あひい………そんな………」
熱い精液が膣内につ………!♡

ゴッ!

ハッハッ♡
ハッハッ♡

ジュンジュンジュンジュンジュンジュン!

「うそお……っ! まだ出てるっ! もうこれ以上だすなあっ!♡
もうチンポ抜けっ! 抜いてえええええっ!」

でてる…

うぬえ♡

「んおっ! リオの締め付けすぎ……っ!
俺の精液、たっぷり搾り取られちゃったぜ……!」

ゴジュン!

ジュン♡
ジュン♡



「オレの膣内……精液でいっぱい……
だめだって言ったのに……♡」

はあ

はあ

「バカッ！膣内に出すなって言っただろ……！
絶対に許さないからなっ♡」

（コウスケ、ゴメン、オレ、転校生に中出しされちゃった……）

たふい

たふい



「リオがエロすぎて、まだまだ俺のチンポがおさまんねえわっ！
もう一発やるぞっ！」

「えっ！嘘だろ……まだやるのかよっ！」

あッ♡ ヤッ♡

「お、オレは男なんだ……もうやめてくれ……」

「何が男だよっ！」

「こんなエロい尻した男がいるわけ無いじゃんっ！」

「んああっ！♡そんな後ろからガンガン突くなあ！♡」

（こいつのチンポ……）

オレの気持ちいい所ばかり突いてきやがる……♡（♡）

ズグ

ズグ

ズグ



「あああつ……ああ……ッ
はあ……あんつ……っ♡」

(クソっ……嫌なはずなのに……
なにか熱いものがこみ上げて……)

ヤッ♡

あ♡

「オマン」きゅんきゅんさせちゃって……
イキそうになってんの……っ」

「違うっ！そんなことない……ああん♡」

ズグ

ズグ

ズグ



「ごまかしても無駄無駄あつ！

派手にイカせて女だということを思い知らせてやんよ！」

「おらっ！イケっ！イッちゃえ！」

イグッ♡

イグッ♡

ビクッ

ビクッ

1/10
ンッ

1/10
ンッ

1/10
ンッ

1/10
ンッ

1/10
ンッ

「今そんな激しく突かれたらやばいからあ……♡
あつふつ……♡だめえ……♡何かくるう……っ！♡」

「あひっ……♡んっあぁっ……♡
イグッ♡……イッちゃっ……っ……♡
「♡……♡」

「ふああ……♡チンポでガンガン奥突かれて
イッちゃったよお……♡オレ、男なのにい……♡」

「はっは！イッちゃった？

すげえ、体がビクンビクンしゃちゃってるよ？
そんなにチンポが気持ちよかった？」

あッ♡

ひんッ♡

「く、くそお……お、オレは男だ……んっ、あんっ♡
こんなの気持ちよくない……っ！ああん……っ♡」

（本当は気持ちよかった……♡
だけど絶対に言葉に出しちゃダメだ……
メスになっちゃう……♡）



「まだ素直になれないみたいだな……お仕置きだっ！
もう一発膣内に出して女にしてやるぜっ！」

「ま、まてっ！だから膣内はダメって……」

らめっ♡

ひんっ♡

「そんなわがまま言うなっ！」

メスはこうやって素直に精液を受け入れるもんだっよっ！

おらッ！出すぞっ！」

「そんな！これ以上膣内に出したら

本当に赤ちゃん出来るからあ……ッ♡」



「ジュジュッ……」

「やめろぉーっ……♡♡♡」

「♡♡♡」

「あぁ♡♡♡」

「♡♡♡」

「はぁ……はぁ……オレのおまんこ……♡♡♡」

「ああ……また膣内に出されちゃった……♡♡♡」

「ふう……リオのまんこ……♡♡♡」



「うおおっ…リオの身体エロすぎっ…
まだやれるわっ…」

うめッ♡

んめッ♡

「さっきイッたばかりだからあ……♡
そんなに激しくしゃちゃだめえ……♡」

「そんなにズンズン突かれたらあ……♡
女になっちゃうのおおお……っ……♡」

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

「んあああッ!ふあッ!……!ああッ!……!ふあああッ!……!んふっ!ふっ!ふっ!……!」♡♡

「はっはっ！めっちゃエッチな声出てるじゃん♪」

あハ

201

あ♡

70

「しかもリオのマン」、
めっちゃオレのチンポ吸い付いちやってるし♪
コレでも気持ちよくないっつーの?」

「うう……そ、それは……」

ズン

245

ズン

745



(オレ……さっきからイキッばなし……
もう何回イッたか覚えてない……)

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

(チンポで突かれるたび
自分がメスだということを、思い知らされてしまう……)

(やっぱオレ……メスだったんだ……)

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

「そろそろ素直になつたらどうなんだ？
チンポ気持ちいいんだろ？」

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

（ああ……もうだめだ……快楽に逆らえない……）

「チンポ……気持ちいいの……♡」

「極太オチンポっ！気持ちよすぎなのおお——ッ♡
さつきからイキッばなしなのおお——ッ♡」

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン



「はっはっはっ！ やっと素直になったかつ！
今のお前は可愛いメスだぞっ！」

「あはあっ♡あひっ♡極太オチンポでズポズポ奥を突かれて、
メスになっちゃったよおお♡」

「す、すげえ……素直になった途端、締め付けきつくなってたぞ……
どんだけ俺のチンポ好きなんだよ……」



「くっ……俺そろそろイキそうだわ……膣内に出していいよな?」

「だ、だけど……」

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

「絶対膣内射精気持ちいいよ?一緒に気持ちよくなろ?な?」

「う、うう……」

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン



「ああ、もう限界だわ……どうすんだ？早く決めるよ！」

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

「わ、わかった、出せっ……♡
膣内にドピュドピュ精液出せよっ♡」

（膣内射精ダメなのに……自分から受け入れてしまった……
オレ……チンポに勝てなかった……♡）

ズン
ズン
ズン

ズン

ズン

ズン



ビュルルルウウウッー！
ビュルッー！

びゅん♡

ビクッ

ビクッ

エビッ

びゅん♡

「んあっ……♡

子宮に直接注がれてるぅぅぅ……♡

「あっ……♡はあっ……♡

精液ドクドク気持ちいいのぉ……♡



「くあっ、すげっ……リオのマンコがザーメン搾り取るみたいに
俺のチンポに吸い付いてきやがる……」

はぁ♡

はぁ♡

（オレのマンコが、精液求めて
キュンキュンしちゃってるの
バレバレじゃん……はづかしいよぉ……♡）

「ふう……リオのマンコ」気持ち良すぎて
キンタマ空っぽになるまでたっぷり出しちゃったわ♪」

キュン
キュン

んんん
んんん

んんん…

んんん…

「はあ……はあ……♥
何発も膣内に出しやがって……♥」

「わりいわりいー！

リオがエロすぎて我慢できなかったわ(笑)」

「こんなに膣内に出したら

赤ちゃん出来ちゃうだろ……どうすんだよ……♥」

はあ♥

はあ♥

「ちっ……しゃあねえな……

赤ちゃん出来たら責任とってやんよ……」

(嘘だけど)(笑)

「せ、責任とかそういう問題じゃ……」

ひゅ♥

ひゅ♥

コポ…

コポ…

にゅお。

「あ、そういえば、このセックスの様子、
隠しカメラで撮ってるんだったわ!」

「この動画どうしようかな?」
「コウスケに送ろうかな?」

「やめろっ!」コウスケに送るのだけはやめてくれっ!」

はあ♡

はあ♡

「送られなくなったら……わかるかな?」
「夏休み中毎日ハメまくるんでよろし〜」

「う、うう……わ、わかった……」

ん♡

ん♡

コポ..

コポ..

にゅお..

長かった夏休みもようやく終わり、僕は日本に帰ってきた。
リオは大丈夫かなあ……



なんだこれは……ポストに謎のDVDが入ってる……

嫌な予感がするが、何故か見なきゃいけないような気がして
再生することにした……

□DVD

「どうっ・オレのチンポ？・気持ちいいっしょ？」

「ふぁっ………♡お前のチンポ、気持ちいいのお
んふっうっうっ！♡またイッちゃった………♡」

あん♡

あ♡
あ♡

ぽろん

ズッ

ぬちゅ

ぬちゅ

「はっは！あんなに自分は男だと言い張ってたやつが
こんなにかわいいメスになるとは、思わなかったわ！」

「だってえ……仕方ないだろ……♡
お前がズコズコ極太チンポで突くからあ………♡」

「処女を奪った日から
毎日パコパコハメまくってたらこれだもんなあ(笑)
スケベすぎるっしょ(笑)」

□DVD

「あつ、そうそう、これ動画撮ってるんだわ
「コウスケになにか伝えたいメッセージある?」

「コウスケごめん……オレ……
こいつのチンポにズコバコ突かれて、
女にされちゃった……♡」

あん♡

あ♡

あ♡

ズルん

ズルん

ズルッ

ズルッ

ぬちゅ

ぬちゅ

「オレ……もうこいつのチンポなしじゃ生きていけない……
もうコウスケに合わせる顔がないよお……♡」

「つーわけなんだわ!コウスケわりいな!
リオのドスケベボディは俺のもんなんだわ!」

□DVD

「あっはあっ！♡チンポ気持ちいいいっ！♡
腰の動き止まんないよおおっ♡」

あん♡

あっ♡

あ♡

ズルん

ズルん

ズルッ

ズルッ

ぬちゃ

ぬちゃ

「お、おおっ！リオの腰の動きまじすげえっ……
限界だっ！膣内に出すぞっ！……」

「あはっ♡出しちゃえっ！♡
オレの膣内に精液出しちゃえよっ♡」

□DVD

あぁ~~~~♡

ジュルジュルジュル~~~~ジュルジュル~~~~ジュル~~~~ジュル~~~~

ヒクヒク

ジュルルル♡

「あああああぁっ——っ♡
精液……子宮に直接出てるっ……っ♡」

「あひいっっっ♡すごい……っ♡
やっぱり膣内射精きもちいいいっっっ♡」

□DVD

あぁ〜♡

僕の知っているリオはもう戻ってこないんだ……
どうしてこんなこと……

「おおお……やっぱりお前のマン」すげえわ……
俺のチンポに愛おしそうに絡みついてきやがる……」
「当然だろ、だってお前のチンポ大好きなんだもん♡」

おわり

ビュルルル♡

ヒクヒク

「だめえええ〜ッッッ!」
んっあああああ〜ッッッ!」

ビュビュウウウウッッッ! ビュッビュッ! ビュルッ!

おっおっおっ! ♡

「あひい………そんな………」
熱い精液が膣内につ………! ♡

おっおっおっ! ♡

ゴッゴッ!



ジュッジュッージュッージュルルッー

「うそお……っ！まだ出てるっ！もうこれ以上だすなあっ！♡
もうチンポ抜けっ！抜いてえええええっ！」

でてる…

うぬえ♡

「んおっーリオの締め付けすぎ……っ！
俺の精液、たっぷり搾り取られちゃったぜ……」

ゴッゴッ！

ハッハッ♡
ハッハッ♡

「オレの膣内……精液でいっぱい……♡
だめだつて言ったのに……♡」

はぁ

はぁ

「バカッ！膣内に出すなって言っただろ……!!
絶対に許さないからなっ♡」

（コウスケ、ゴメン、オレ、転校生に中出しされちゃった……）



ビュルルルウウウッー！
ビュルッー！

びゅん♡

びゅん♡

「んあっ……♡

子宮に直接注がれてるぅぅぅ……♡」

「あっ……♡はあっ……♡

精液ドクドク気持ちいいのぉ……♡」

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡



「くあっ、すげっ……リオのマンコがザーメン搾り取るみたいに
俺のチンポに吸い付いてきやがる……」

はぁ♡

はぁ♡

（オレのマンコが、精液求めて
キュンキュンしちゃってるの
バレバレじゃん……はづかしいよぉ……♡）

「ふう……リオのマンコ気持ち良すぎて
キンタマ空っぽになるまでたっぷり出しちゃったわ♪」

キュン
キュン

んんん
んんん

ブルン…
ブルン…

ブルン…
ブルン…